

## カテゴリー

# 先端芸術音楽創作学会会報テンプレート ver.240530

## ー日本語タイトル2行目ー

### English Title:

### English Title Second Line

先端 花子

Hanako SENTAN

ポンピドゥ大学作曲研究所

Research Center of Composition

Univ. of Pompidou

現代 二郎

Jiro GENDAI

作曲家

Indipendent Composer

## 概要

このテンプレートファイル“JSSA\_Template\_JPN.tex”と“jssa.sty”は、JSSA 先端芸術音楽創作学会の、口頭発表予稿を含む会報の原稿、もしくは査読論文用の $\LaTeX$ テンプレートである。概要は日本語と英語の兵器が必要となる(ただし学生の口頭発表の予稿は英語の概要を必須としない)。

日本語の概要の後には「\」を入れ、一行空けて、英語の概要を書くこと。

These Japanese  $\LaTeX$  templates, “JSSA\_Template\_JPN.tex” and “jssa.sty” are for articles for magazine (non peer-reviewed) and Journal (peer-reviewed) of Japanese Social of Sonic Arts. For English article please use another attached template files, “JSSA\_Template\_ENG.tex” and “jssa\_e.sty”. These files are suitable for English “pdflatex” environment.

## 1. カテゴリー

以下で示すカテゴリーの他にも受付可能なので, office@jssa.info に問い合わせること。

### 1.1. 研究会口頭発表予稿

研究発表予稿としては、「研究報告」(Research Report), もしくは「創作ノート」(Composer's Note)が一般的である。

### 1.2. 会報掲載原稿

口頭発表を伴わない会報掲載原稿には「連載」「解説」などがある。

## 2. タイプセットコマンド

### 2.1. 共通の注意事項

欧文文字をそのまま取り扱うために、このテンプレート“JSSA\_Template\_JPN.tex”ファイルと“jssa.sty”ファイルは UTF8 エンコードを保つこと。

### 2.2. Cloud LaTeX でのコンパイル

<https://cloudlatex.io> にアップロードし, LaTeX エンジンに「uplatex」に指定し、コンパイルする。

### 2.3. ローカルでのコンパイル

このテンプレートをローカルマシンでコンパイルし PDF を生成するには、TeXLive2016 以降の環境で、「uplatex」コマンドでタイプセットし、「dvi2pdf」コマンドで PDF を生成する。

もし通常の“latex”コマンドを使いたい場合、ウムラウトやアクセント記号などを持つ文字を本テンプレート中から削除し、他言語対応パッケージをコメントアウトして、“latex”コマンドを使うこと。

## 3. TEX テンプレートの使い方

基本的に全ての記法は通常の LaTeX のものを用いる。

### 3.1. 著者情報

\author{}内に、「著者\著者英語名\所属\所属英語名」の順番で記入する。著者が複数の場合、著者情報を\and で区切って複数括弧{}内に入れる。「\」は

改行の意味なので、所属が横に長くなる時は、適当に改行を入れること。

著者氏名のアルファベット表記は名は頭文字のみが大文字、氏は全て大文字とする。

```
\author{先端 花子 \\
Hanako SENTAN \\
ポンピドゥ大学作曲研究所 \\
Research Center of Composition\\
Univ. of Pompidou
\and
現代 二郎 \\
Jiro GENDAI \\
作曲家 \\
Independent Composer
}
```

著者全員が同じ所属の場合、もしくは著者数が4人を超える場合、著者名を並べて「,」で区切り、上記のフォーマットで1つの著者として扱うことができる。

#### 4. 見出し

見出しは以下のとおりである。

##### 4.1. subsection

ここが \subsection{ }.

##### 4.1.1. subsubsection

ここが \subsubsection{ }.

##### 4.2. 図の挿入

以下のようにして PDF ファイルの図を挿入する。

figure 環境で [h] もしくは [h] オプションをつけることにより“可能ならば”図が指示した場所に入れることができる。

```
\begin{figure}[h1]
\centerline{
\includegraphics[
width=\columnwidth]{ファイル名.pdf}
}
\caption{日本語キャプション}
\label{fig:figure}
\end{figure}
```

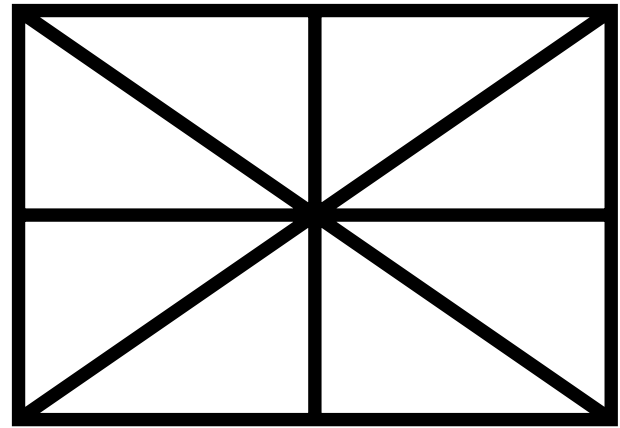


図 1: 日本語キャプション

##### 4.3. 脚注

以下のようにして脚注を挿入する<sup>1</sup>。

以下のようにして脚注を挿入する \footnote{これが脚注部分}.

##### 4.4. 箇条書き

##### 4.4.1. 番号付き箇条書き

以下の様には書き込むと、

```
\begin{enumerate}
\setlength{\parskip}{0cm} % 段落間スペース
\setlength{\itemsep}{0cm} % 項目間スペース
\item 番号付き箇条書きの1つ目
\item 番号付き箇条書きの2つ目
\end{enumerate}
```

この様に表示される。

1. 番号付き箇条書きの1つ目
2. 番号付き箇条書きの2つ目

ローマ数字を使いたい場合、以下のように書くと、

<sup>1</sup>これが脚注部分

```
\begin{enumerate}[label=\textbf{\roman*.}]
\setlength{\parskip}{0cm} % 段落間スペース
\setlength{\itemsep}{0cm} % 項目間スペース
\item 番号付き簡条書きの1つ目
\item 番号付き簡条書きの2つ目
\end{enumerate}
```

この様に表示される。

- i. 番号付き簡条書きの1つ目
- ii. 番号付き簡条書きの2つ目

アルファベットを番号に使いたい場合、以下のよう  
に書くと、

```
\begin{enumerate}[label=\textbf{\alph*.}]
\setlength{\parskip}{0cm} % 段落間スペース
\setlength{\itemsep}{0cm} % 項目間スペース
\item 番号付き簡条書きの1つ目
\item 番号付き簡条書きの2つ目
\end{enumerate}
```

この様に表示される。

- a. 番号付き簡条書きの1つ目
- b. 番号付き簡条書きの2つ目

#### 4.4.2. 番号なし簡条書き

以下の様に書き込むと、

```
\begin{itemize}
\setlength{\parskip}{0cm} % 段落間スペース
\setlength{\itemsep}{0cm} % 項目間スペース
\item 番号なし簡条書きの1つ目
\item 番号なし簡条書きの2つ目
\end{itemize}
```

この様に表示される。

- 番号なし簡条書きの1つ目
- 番号なし簡条書きの2つ目

#### 4.4.3. 説明リスト

HTMLで言う所の「説明リスト(旧定義リスト)」を表すためのもの。

```
\begin{description}
\setlength{\parskip}{0cm} % 段落間スペース
\setlength{\itemsep}{0cm} % 項目間スペース
\item[コンサート名] JSSA 音楽祭 2023
\item[開催日時] 2023 年 8 月 10 日～11 日
\item[開催場所] 目黒パーシモンホール
\end{description}
```

というように大括弧でラベル部分の文字を括ると記述できる。

以下の様に表示される。

コンサート名 JSSA 音楽祭 2023  
開催日時 2023 年 8 月 10 日～11 日  
開催場所 目黒パーシモンホール

ラベル部分と説明部分を改行したい場合は、以下の様に小手先の手法を使って対応する。

```
\begin{description}
\item[コンサート名] \mbox{}\ JSSA 音楽祭 2023
\item[開催日時] \mbox{}\ 2023 年 8 月 10 日～11 日
\item[開催場所] \mbox{}\ 目黒パーシモンホール
\end{description}
```

以下の様に表示される。

コンサート名  
JSSA 音楽祭 2023  
開催日時  
2023 年 8 月 10 日～11 日  
開催場所  
目黒パーシモンホール

#### 4.4.4. 簡条書きの入れ子は避ける

また簡条書きは入れ子にできなくもないが、「簡条書き」は簡条書きする意味があり、入れ子にすることは文章の意味が伝わらなくなってしまうので、避けること。

どうしても入れ子にしたい場合、番号付き簡条書きと番号なし簡条書きを組み合わせることで、意味が伝わることもあるが、推奨はしない。

例えば以下の様な書き方をすると、

```
\begin{enumerate}
\item 第1レベルの箇条書き1つ目
\item 第1レベルの箇条書き2つ目
\begin{itemize}
\item 第2レベルの箇条書き1つ目
\item 第2レベルの箇条書き2つ目
\end{itemize}
\item 第1レベルの箇条書き3つ目
\end{enumerate}
```

以下の様に表示される。

1. 第1レベルの箇条書き1つ目
2. 第1レベルの箇条書き2つ目
  - 第2レベルの箇条書き1つ目
  - 第2レベルの箇条書き2つ目
3. 第1レベルの箇条書き3つ目

## 4.5. 参考文献と参考作品

### 4.5.1. 参考文献

まず、本文終わり(著者プロフィールの前)に以下の様に参考文献リストを作っておく。

```
\begin{thebibliography}{文献の数}
\bibitem[本文中の表示 (著者苗字 発行年)]{henoheno:08}
へへのへ もへじ。2008.『コンピュータ音楽の本』、
ミンメイ書房。
\bibitem[著者苗字 発行年]{harahoro:09}
はらほろ ひれはれ。2009.
「コンピュータ音楽の本の概要」『現代コンピュー
タ音楽学会誌』 2(4), 22--26,
2009.
\end{thebibliography}
```

以下のようにして参考文献を引く(へのへの2008)。

以下のようにして参考文献を引く\cite{henoheno:08}。

このようにも引ける(へのへの2008; はらほろ2009)

このようにも引ける\cite{henoheno:08,harahoro:09}。

BibTeXを使う場合は、普通に同梱のchicago.bstを使えば良いので、

```
\bibliographystyle{chicago}
\bibliography{bibtexのファイル名.bib}
```

と記述する。

### 4.5.2. 参考作品

参考作品(自作品も含む)を引く場合、まず以下のようなりストを、参考文献リストの後に作っておき、

```
\begin{referenceworks}{作品数}
\bibitem[本文中の表示 (作家苗字 発表年)]{composer1:08} 作曲家名 発表年 {\it 作品名} コンサート名
\bititem[作家苗字 発表年]{Sentan:09} 作曲家名 {\it 作品名} in CD名, CD番号
\end{referenceworks}
```

のように引用する\cite{composer1:08}

のように引用する(現代2009)。

なお、参考文献に載せる情報や表示形式は「シカゴスタイル」を強く推奨する。

日本語シカゴスタイルは以下のような順番で

## 5. ドイツ語・フランス語の取り扱い

### 5.1. ウムラウト・アクセント記号など

uplatex コマンドとotf パッケージを使うと、ウムラウトやフランス語で使われるアクセント記号などの文字も普通に出力できるため、TeX ソース中に直接含めて良い。

(前述の通り、環境によってはuplatex のコンパイル時にinputenc 周りのエラーが出ることもあるが、強行して良い)

例: Göteborg

例: Collection complète des œuvres de J.J. Rousseau, citoyen de Geneve

例: François

### 5.2. フランス語引用符

以下のように、「曲名」というフランス語引用符を出す

```
\flqq(半角スペース一つ) 曲名\frqq
```

## 6. 参考文献

へのへの もへじ. 2008. 『コンピュータ音楽の本』  
 ミンメイ書房.

はらほろ ひれはれ. 2009.「コンピュータ音楽の本の概要」『現代コンピュータ音楽学会誌』2(4), 22-26.

Harahore, Hirehara. 2010. "A Reserach about Comtemporary Compsosition" in *the Proceed-ings of International Conference of Comtem-porary Music 2010*, Computer Music Society, Tokyo, Japan, 2135–2138.

Cage, John. 1976. *Pour les oiseaux*. P. Belfond.

## 7. 参考作品

現代 二郎. 2009. 「とある現代音楽の風景を描いた  
1 曲」 JSSA コンサートシリーズ Vol.2.

先端 花子 2008. 「なんかよくわからんけど現代音  
楽っぽい曲」『先端花子曲集 CD』 CDNO-P16.

## 8. 著者プロフィール

**著者名 (Author's Name)**

[illegible]

この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際 ライセンスで提供されています。ライセンスの写しをご覧になるには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/> をご覧くださいか、Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA までお手紙をお送りください。